

令和3年度

名古屋大学大学院情報学研究科

博士後期課程

数理情報学専攻
複雑系科学専攻
社会情報学専攻
心理・認知科学専攻
情報システム学専攻
知能システム学専攻

学生募集要項
(令和3年4月入学)

名古屋大学
大学院情報学研究科

自然災害により被災した入学志願者に係る検定料の特別措置について

名古屋大学では、自然災害等被災者の経済的負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るため、入学試験の検定料免除の特別措置を実施いたします。

なお、詳細は本学ホームページでご確認ください。

○本学ホームページ

URL <http://www.nagoya-u.ac.jp/>

大学からのお知らせ→受験生向け

◆ 不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じる場合があります。試験日程の延期が難しい場合、中止の可能性もあります。変更が生じた場合は、下記ホームページ等により周知しますので、定期的にご確認ください。

○ 情報学研究科ホームページ

URL <https://www.i.nagoya-u.ac.jp/graduate-school-of-informatics/>

新型コロナウイルス感染症における名古屋大学の活動指針に沿った選抜方法の実施について

試験会場、試験室においては、3密回避を徹底するための措置を取ります。

なお、新型コロナウイルス感染症に罹患した受験生や、試験当日に発熱の症状があるなど体調不良の受験者、日本国外からの受験者で渡日できないものについては、代替措置を講じますので、学生募集要項6頁にある照会先までできるだけ速やかに連絡してください。

令和3年度 名古屋大学大学院情報学研究科 博士後期課程学生募集要項

令和3年度本研究科博士後期課程に入学又は進学を志願する学生を以下により募集する。

1. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び令和3年3月31日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和3年3月31日までに授与見込みの者
- (4) 我が国において、外国に大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）

出願資格(5)により出願する者は、7頁の「出願資格(5)により出願する者について」を参照すること。

- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、令和3年3月31日までに24歳に達する者

出願資格(6)により出願する者は、8頁の「出願資格(6)により出願する者について」を参照すること。

2. 募 集 人 員

数理情報学専攻	4名
複雑系科学専攻	8名
社会情報学専攻	5名
心理・認知科学専攻	7名
情報システム学専攻	9名
知能システム学専攻	10名

3. 願書受付期間及び出願手続

令和3年1月6日(水)から令和3年1月13日(水)16時まで(郵送必着)

志願者は、出願書類を取りそろえ、本研究科所定の願書送付用封筒に入れ、情報学研究科教務学生係に郵送すること。

- (1) 出願書類は、書留郵便(海外から送る場合は追跡記録が残る方法)で送付すること。
- (2) 受験票は、郵送で本人に交付する。試験1週間前までに到着しない場合は、情報学研究科教務学生係に確認すること。
- (3) 出願書類に不備のある場合は、受け付けないので留意すること。
- (4) 出願手続後は、書類の変更、差替、返却は受け付けない。

4. 出 願 書 類

全員が提出する書類

- (1) 入学志願票(【様式1】に記入したもの)
- (2) 受験票、写真票(本研究科所定の用紙に記入したもの)
- (3) 志願理由書(【様式2】に記入したもの)
- (4) 履歴書(【様式3】に記入したもの)
- (5) 返信用封筒2通(受験票送付用、連絡用)

本研究科所定の返信用封筒2通に出願者本人の受信場所・郵便番号・氏名を明記して、提出すること。

なお、受験票送付用封筒には374円切手を貼付すること。(ただし、海外の場合はEMSでの返信に必要な郵便料金(重量は500gまで)の国際返信切手券(IRC)を同封すること。)

- (6) 宛名シール2枚(本研究科所定の用紙に記入したもの)
- (7) 修士学位取得(見込)証明書又は修士修了(見込)証明書(コピーは不可)
本研究科、情報科学研究科及び人間情報学研究科の修了見込者及び修了者は不要
- (8) 成績証明書(最終出身大学院作成のもの)

本研究科、情報科学研究科及び人間情報学研究科の修了見込者及び修了者は不要

外国の大学を卒業した者は、大学又は公証所等が発行した証明書(日本語あるいは英語で書かれていない場合は、英訳版を添付)を提出すること。(コピーは不可)

- (9) 入学検定料 30,000円

ただし、本学大学院博士前期課程を修了し、引き続き本研究科博士後期課程へ進学する者及び国費外国人留学生として入学する予定の者は、入学検定料不要。

・所定の「検定料払込書」に必要な事項を記入して、郵便局の受付窓口で現金を添えて払い込む(ATMは利用しないこと。また、現金や郵便普通為替での納付はできない)。払込開始日は令和2年12月7日(月)。ただし、海外在住で郵便払込が困難な場合は、クレジットカード決済で納入することができる。出願前にメールにより問い合わせること。

・「A. 払込取扱票」、 「B. 振替払込請求書兼受領証」及び「C. 振替払込受付証明書(検定料払込証明書)」のご依頼人氏名欄は必ず志願者本人の氏名とすること。

・払込手数料は志願者本人の負担。

・払込後、領収印を受けた「C. 振替払込受付証明書（検定料払込証明書）」を入学志願票の所定の場所に貼付すること。

・「B. 振替払込請求書兼受領証」は、本人の控えとして保管すること。

【注意】出願書類を受理した後は、いかなる理由があっても納入済みの検定料は返還しない。ただし、以下に該当する場合は、納入された検定料を返還するので、令和3年1月29日（金）までに情報学研究科教務学生係に照会すること。なお、返還にかかる振込手数料は差引いて振込む。

- ① 検定料納入後、出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合
- ② 検定料を二重に払い込んだ場合

(10) 修士学位論文1部（写も可）及び論文要旨1部（修士学位論文を提出しないで修了した者はそれに代わる研究論文等）ただし、令和3年3月31日までに修士学位取得見込の者は、修士学位論文は不要であり、論文要旨1部のみを提出するだけでよい。

論文要旨については、【様式4】に記入するか所定の様式全てをワープロ等で作成してもよい。必要に応じて用紙を追加してもよい。

(11) オンライン口述試験に関する誓約書（【別紙2】に記入したもの。遠隔による試験の実施の可能性に備え、提出すること。）

(12) オンライン口述試験連絡票（【別紙1】参照。遠隔による試験の実施の可能性に備え、インターネットにより提出すること。）

参考資料として提出することが望ましい書類

- (1) 修士論文以外に本人の研究能力を示す資料がある場合は、それらを1部（コピーでよい）及び必要に応じてその概要を1部
- (2) 外国人留学生で日本語能力試験を受験したことがある者は、合格証又は成績通知書。複写したものを提出する場合は、「これは原本の複写に相違ありません」と記入し、署名又は押印すること。
- (3) 英語検定試験（英検・TOEIC・TOEFL・IELTS・Duolingo など）、その他の外国語（仏独語など）検定試験の資格をもつ者は、合格証又は成績通知書のコピー。複写したものを提出する場合は、「これは原本の複写に相違ありません」と記入し、署名又は押印すること。合格証又は成績通知書の有効期限は、平成30年4月1日以降受験分とする。

該当者のみ提出する書類

(1) 外国人の志願者は、市区町村長の発行する住民票の写し、住民票記載事項証明書又は在留カードのコピー（両面）を提出すること（いずれも在留資格を確認できるものであること。住民票コード通知書は不可）。

また、現在海外に在住している者は、国籍を確認できるもの（例えばパスポートの国籍が記載されている顔写真のある頁のコピー）を提出すること。出願書類等には、これらの証明書に記載された氏名を用いること。

(2) 官公庁，会社，団体等に在職中で入学後も引き続き在職する者は，受験承認書を提出すること（様式は随意）。

(3) 現在国費留学生である者はその証明書（在学している大学発行のもの）を提出すること。ただし，学内からの受験者は提出不要。

5. 選 抜 方 法

(1) 入学・進学者の選抜は，口述試験の成績並びにその他提出された書類による総合評価で行う。

(2) 口述試験は，次の日程により行う。ただし，出願者に特段の事情がある場合は，出願前にあらかじめ情報学研究科教務学生係に連絡すること。

(3) 口述試験の試験場は，当日，情報学研究科棟（名古屋大学東山地区配置図参照）1階玄関に掲示する。

(4) 試験場には，試験開始 30 分前に到着すること。

口述試験

修士学位論文又はそれに代わる研究論文及び博士後期課程における研究計画についての発表（あわせて 20 分程度）と発表についての質疑応答，及び専門分野についての試問を行う。

専攻名	試験日	試験時間
数理情報学専攻	2月16日（火）	9：30～
複雑系科学専攻	2月16日（火）	9：30～
社会情報学専攻	2月16日（火）	9：30～
心理・認知科学専攻	2月16日（火）	9：30～
情報システム学専攻	2月16日（火）	9：30～
知能システム学専攻	2月16日（火）	9：30～

注：発表の際には，PCプロジェクターを利用することができる。ただし，PCプロジェクターに接続するPCは各自持参すること。

6. 合格発表

令和3年2月22日（月）12時 情報学研究科棟玄関に掲示する。なお、郵送により可否を本人宛通知する。

また、掲示発表後、本研究科ホームページにおいても発表する。ただし、これは受験生の便宜を図るための速報であるため、必ず掲示又は郵送される可否結果通知により確認すること。

7. 入学手続

入学手続については、令和3年3月上旬本人に通知する。手続日は、令和3年3月下旬の予定である。

8. 入学料及び授業料

(1) 入学料 282,000円

(2) 授業料 春学期分 267,900円（年額535,800円）

（注1）入学料は入学手続き時に納入する。授業料は、春学期及び秋学期に分けて、春学期にあつては4月、秋学期にあつては10月に納入する。ただし、入学初年度における春学期授業料は、5月に納入する。

（注2）入学時及び在学中に学生納付金額の改定が行われた場合には、改正時から新たな納付金額が適用される。

9. その他

(1) 出願資格、出願書類及び選抜方法等本研究科入学試験に関して不明な点は、あらかじめ問い合わせること。

(2) 障害等があつて試験場での特別な配慮を必要とする者にあつては、令和2年12月14日（月）までに、以下3点を添えて、その旨を情報学研究科教務学生係へ申し出ること。

1) 受験上の配慮申請書（障害の状況、受験上配慮を希望する事項とその理由等を記載したもの、様式随意、A4サイズ）

2) 障害等の状況が記載された医師の診断書、障害者手帳等（写しでもよい）。

3) 障害等の状況を知っている第三者の添え書（専門家や出身学校関係者などの所見や意見書）。

4) 適宜それ以外の書類を添付しても構わない。

なお、受験や入学後の修学に関して相談の希望がある者は、出願期限までに問い合わせること。

(3) 志願者は、出願に際して志望グループ・志望教員を決めるにあたり、希望する教員に事前に直接連絡をとること。

- (4) 教員の研究内容等については、(<https://www.i.nagoya-u.ac.jp>)を参照すること。
- (5) 名古屋大学においては、構内への車両の入構規制を実施しているので、受験の際は、公共交通機関を利用すること。
- (6) 住所・氏名・生年月日その他の個人情報は、入学選抜、合格発表、入学手続き及びこれらに付随する事項にのみ利用する。また取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には利用しない。
- (7) 災害や感染症の流行等により、(新型コロナウイルスの状況によって、)試験をオンラインで実施する可能性がある。その場合、試験日時については、受け入れを希望する教員に連絡をとって、確認すること。

※不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、ホームページ(<https://www.i.nagoya-u.ac.jp/>)により周知するので、定期的に確認すること。

【照会先】〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院情報学研究科教務学生係
TEL 052-789-4721・4722
<https://www.i.nagoya-u.ac.jp/>
E-mail: admission@i.nagoya-u.ac.jp

出願資格（5）により出願する者について

1. 出願資格

文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示 118 号）

次のいずれかの要件を満たす者であること。

- 1 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- 2 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

なお、「修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者」とは、学術論文、著書、研究発表、特許、作品等により、修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者である。

2. 資格審査

2.1 提出書類

出願資格（5）により出願する者は、あらかじめ次の書類を令和2年12月10日（木）16時（必着）までに、情報学研究科教務学生係へ郵送（書留郵便で封筒の表に「後期課程事前審査申請」と朱書）し、出願資格の有無についての資格の事前審査を願い出ること。

- (1) 事前審査申請書（【様式5】に、本人が記載したもの）
- (2) 履歴書（【様式3】に、本人が記載したもの）
- (3) 事前審査シート（【様式7】に、本人が記載したもの）
- (4) 研究歴証明書（【様式9】に、所属の長等が証明したもの）
- (5) 卒業証明書（大学のもの）
- (6) 成績証明書（大学のもの）
- (7) 業績として学術論文、著書、研究発表、特許、作品等の写し

2.2 審査結果の通知

本研究科で資格審査を実施し、その結果は令和2年12月25日（金）までに本人に郵送する。

3. 出願書類

資格審査の結果、「出願資格あり」と判定された者は、募集要項の「4. 出願書類」に記載の書類を出願時に提出する。ただし、全員が提出する書類の「(4) 履歴書」「(7) 修了証明書等」「(8) 成績証明書」の提出は不要である。

出願資格（6）により出願する者について

1. 出願資格

本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学する年の3月31日までに24歳に達する者

本研究科が「修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者」は、以下の2つのいずれかの要件を満たす者を想定している。

- (1) 学術論文、著書、研究発表、特許、作品等により、修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者
- (2) 技術職や教育職などの専門的職業に就き、成果を挙げている者

2. 資格審査

2.1 提出書類

出願資格（6）により出願する者は、あらかじめ次の書類を令和2年12月10日（木）16時（必着）までに、情報学研究科教務学生係へ郵送（書留郵便で封筒の表に「後期課程個別審査申請」と朱書）し、出願資格の有無についての資格の事前審査を願い出ること。

- (1) 個別審査申請書（【様式6】に、本人が記載）
- (2) 履歴書（【様式3】に、本人が記載）
- (3) 個別審査シート（【様式8】に、本人が記入したもの）
- (4) 卒業証明書（最終学歴の教育機関のもの）
- (5) 成績証明書（最終学歴の教育機関のもの）
- (6) （該当する場合は）業績として学術論文、著書、研究発表、特許、作品等の写し
- (7) （該当する場合は）研究職／専門職従事証明書（【様式10】に、所属の長等が証明したもの）

2.2 審査結果の通知

本研究科で資格審査を実施し、その結果は令和2年12月25日（金）までに本人に郵送する。

3. 出願書類

資格審査の結果、「出願資格あり」と判定された者は、募集要項の「4. 出願書類」に記載の書類を出願時に提出する。ただし、全員が提出する書類の「(4) 履歴書」「(7) 修了証明書等」「(8) 成績証明書」の提出は不要である。

名古屋大学大学院情報学研究科

● 研究科の基本理念

情報革命は二つの側面を併せ持っている。第一にそれは人類の抱える問題とその解決をより複雑なものにした。人類が直面する問題は、自然・人間・社会・人工物が絡まり合うことで生み出されてきた。これに膨大な情報が加わることで、問題はさらに複雑さと困難さを増した。第二に、情報革命は問題解決手段の大幅な拡充をもたらしている。自然・人間・社会・人工物は「情報の流れ」として統合的に理解することができ、情報科学技術は、その緩やかな統御を通じて、人類が直面する複雑かつ困難な課題に新たな解決方法を与える可能性をもつ。さらに情報革命は、既存の問題の解決手段に留まらず、新しい価値創造のための手段も与えてくれる。

こうした情報科学技術の潜在的可能性を十分に開花させ、問題解決と新たな価値創造を実現するために、本研究科では、分野横断的な知恵としての新しい「情報学」の創造を目指している。自然・人間・社会・人工物を、情報の流れを創出するシステムとして統合的に理解することを目指す。そして、その理解に基づき、新しい情報の流れを総体としてデザインし、狭義の情報処理技術のみならず、法・規範や制度・組織・意思決定までを含む「広い意味での情報システム」を構想・実現することで、人類の生存と幸福に寄与する。

● 研究科の教育

情報革命の進展にともなって、情報処理手法を活用することにより膨大なデータを分析して新規性と価値のある情報を取り出す方法論の開発がアカデミックな優位性を保つためにきわめて重要になっている。さらに、自然・人間・社会・人工物にわたる現象を情報処理過程と捉えてモデル化する見方や、さらには膨大なデータそのものをモデルの代わりとする見方がさまざまな分野に取り込まれ、情報という枠組みを共通言語とすることで分野間の融合が進みつつある。

また、我が国の産業は、情報科学技術を活用した社会イノベーションの創造や業務革新においては、他国に遅れをとっている。そこで、情報科学技術に関する最新の知識に加えて、自然・人間・社会等の実世界についての深い理解をもつ人材が求められている。そして、情報科学技術と実世界を繋いで、価値創造をデザインするとともに、それを実世界で実現していく人材が求められている。

情報学研究科の博士後期課程では、各専門領域における研鑽を通して次のような高度研究人材を養成する。新たな情報学の開拓を先導できる情報学関連各分野の研究者
情報学の高度な専門知識と能力を駆使して、社会の各場面で新しい価値創造を先導できる国際性とリーダーシップに富む人材

● アドミッションポリシー

情報科学のもつ学術及び社会への影響力を理解し、その理論・技術基盤を探究し、実践的活用を目指す意欲と基礎学力のある学生を受け入れる。

● 学位

本研究科の博士後期課程において、所定の修了要件を満たした者に対しては、博士（情報学）又は、博士（学術）の学位が授与される。

● 専攻の概要

数理情報学専攻, 複雑系科学専攻, 社会情報学専攻, 心理・認知科学専攻, 情報システム学専攻, 知能システム学専攻の6つの専攻により構成される。

1) 数理情報学専攻

自然現象や社会現象を解明するためのデータ・アナリティクスと情報数理モデルに関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

近年のインターネットの整備, 携帯端末の普及, 計算機性能の向上など, 情報技術の急速な発展により, 大量の情報が我々の社会の至るところにあふれている。それらから意味のある情報を抽出して解析し, それに基づく意思決定を行うために数理情報学は有効な理論と方法を与える。

数理情報学専攻では, 情報学の基礎を支える数理科学の研究・教育を行う。その実現のためには, 広く自然や社会等の実世界における現象をデータ分析から情報学的に理解し数理モデルを構築することが重要である。このモデル構築作業を基に情報に関連する基礎数理を解明し展開することで, 本専攻では情報学を深く豊かに発展させてゆく。そしてこれを通じて, 数理科学的方法を身につけて情報学の応用と発展に中心的役割を担う研究者・高度情報技術者を養成する。

2) 複雑系科学専攻

データを問題解決に結びつけるシミュレーションやデータ・サイエンス, デザイン等に関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

自然や社会における複雑系は, 情報を伝達・変換・蓄積する能力を持つ, 多数の分子, ニューロン, 生物・人間個体などの要素(エージェント)からなるネットワークとして構成されており, “情報流動”を創造する分散型情報システムとみなすことができる。その大きな特徴は, 要素間の相互作用を通して, 要素単独の性質からは予期できないような秩序構造や高次機能を動的かつ自律的に生み出す自己組織化にある。複雑系科学専攻では, こうした構造や機能の自己組織化過程を“情報流動”のダイナミクスに基づく“情報処理”過程とみなすことにより, 理論・実験・計算の革新的方法を開発適用して普遍的な視座を構築し, 情報流動の原理を明らかにするとともに実践的な知を生み出すことを目指す。

そのために, 多岐にわたる自然・人間・社会・人工物など実世界の複雑系現象を対象に, 個別の革新的方法の開発手法とそれらの総合的な適用手法に加えて, 従来の要素還元的方法ではない, モデル系を「つくることによって理解する」構成論的方法を教育する。こうして, 実世界の現象をシミュレーションとデータ・サイエンスの視点から理解するとともに, 情報流動の原理を新しい分散型情報システム的设计へと応用し, 革新的・総合的思考や構成論的思考による新しい発想に基づいて知識や技術を創造できる優れた技術者と研究者を養成する。

3) 社会情報学専攻

社会情報学専攻では、新たな科学的知見の獲得や技術的イノベーションとそれらの市民への提供、社会規範や制度の設計・構築、さらには芸術に見られる新たな価値創造とその社会への定着などに関する原理的研究を行う。その基盤の上で、ICTの利活用による様々な規模におけるコミュニティの活性化と科学技術コミュニケーションの質的向上、さらにはソーシャル・メディアを含む情報の産出・流通・消費のグランドデザインを構築する。とりわけメディア環境のグローバル化、マス・メディアとソーシャル・メディアとの相違と相互影響という視点からの新たな人間観・社会観・価値観に基づくメディア・社会・文化の構築を進める。これらについて研究を行うとともに、以上の研究を基礎とした教育、また中部地方を中心とする国内外の自治体や報道機関・主要企業との間で培ってきた研究・教育や社会連携を通して、高度な倫理・規範意識と専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した人間力を培い、技術と社会のよりよい関係の構築に貢献する人材を育成する。

4) 心理・認知科学専攻

人間や社会の問題に関わる認知・心理的情報処理に関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

心理・認知科学専攻では、知・情・意などの人間の心の働きを、心理実験、社会調査、脳活動測定、コンピュータ・シミュレーション等の手法を用いて明らかにする。ハードウェアとしての「脳」、ソフトウェアとしての「認知情報処理」、インタフェースとしての「身体」、さらには人間が作り出す環境としての「社会」との結びつきなど、多様な観点から人間の心の働きを理解するとともに、人と人、人と人工物、人と環境の間の相互作用やコミュニケーションのメカニズム、プロセスを解明する。

それらの人間の心に関する深い理解に基づいて、システム、環境、サービス、社会等の各領域に表出する諸問題を解決し、新たな価値を創造するためのコンセプト・方法、例えば、人間の特性に関する深い科学的理解に基づくVR（仮想現実感）システム、AR（複合現実感）システムやその他自動化システム的设计、学習支援の開発、デザインや情報伝達媒介の提案、幸福な高齢社会への提案、公正な社会の構築などを遂行できる人材を育成する。さらに、その成果を芸術、医療、教育、人工知能、社会科学諸領域など、様々な学問領域と結びつけることにより、心理学、認知科学、人間科学、および関連する他分野の創発的発展に寄与できる人材も育成する。

5) 情報システム学専攻

情報システムを創造するための情報科学技術とセキュリティに関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

情報システム学専攻では、社会における利便性、安全性、快適性の向上を実現する情報科学技術の創造を目的とした情報システムの教育・研究を行い、効率的で信頼できる情報システムの設計・開発のための情報基盤プラットフォームおよびソフトウェアに対する理論と技術の基盤を確立する情報システム学の新たな発展を目指す。さらに、高信頼アルゴリズムや高度な計算モデルに対する研究に基づいたより高い効率と信頼性を実現する理論と技術の創造によって、情報システムの継続的な進化を探究する。ネットワーク接続により時間的・空間的に境界のない巧緻な次世代情報システムの設計と開発に適用できる情報システム学の教育研究を通じて、システム構築において指導的な役割を担える高度情報技術者及び情報システム学の発展を担える研究者を養成する。

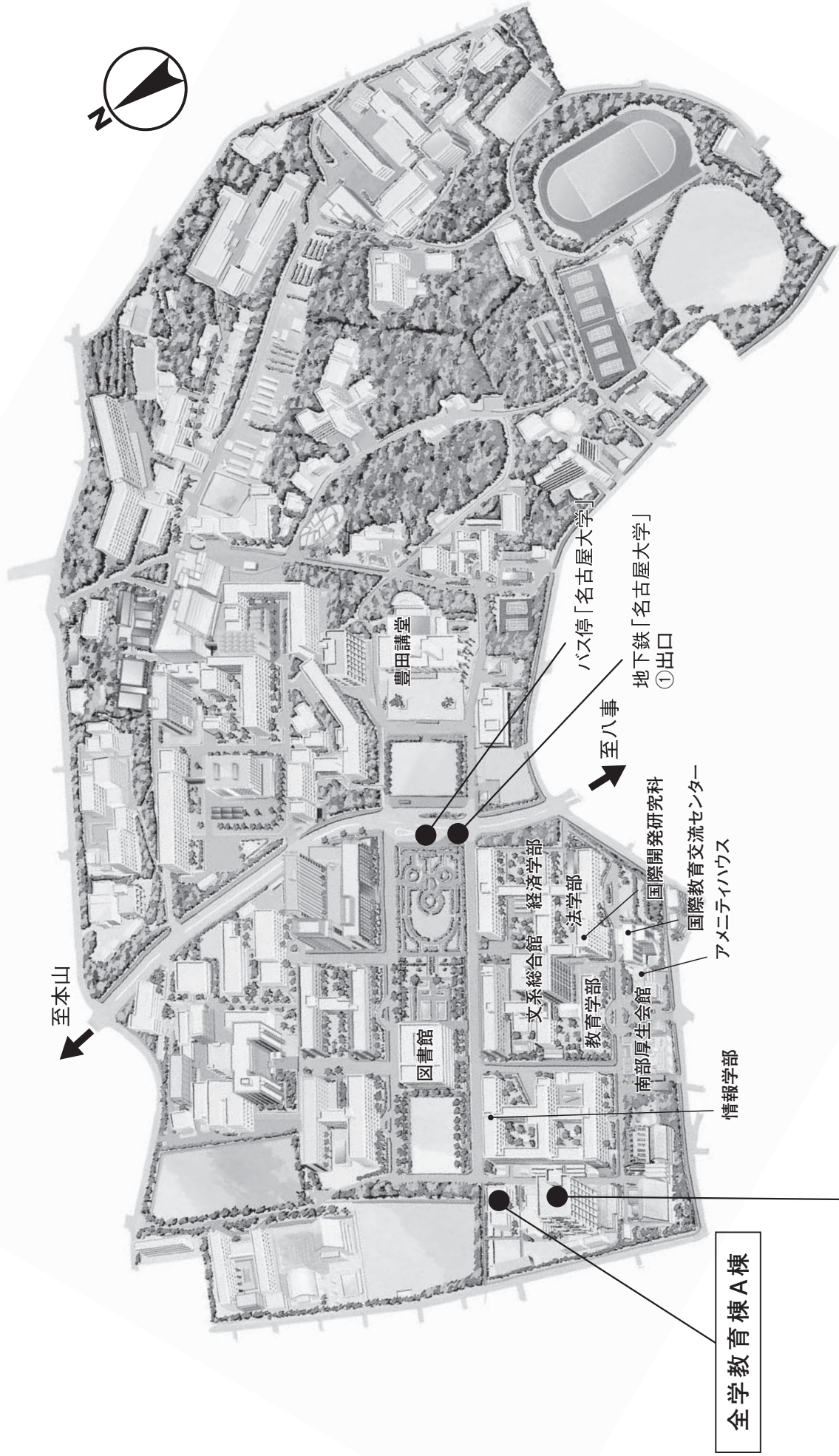
6) 知能システム学専攻

知能システムを創造するための実世界のデータ化と解析，人間と情報システムとのインタフェースに関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

情報システムを社会課題の解決に活用するためには，実世界，すなわち自然，人工物，社会活動から情報を取り出し，人間にとって意味ある形式として情報を処理することが不可欠である。情報システムを新たな価値の創造に活用するためには，処理した情報を実世界に働きかけ，その結果をさらなる情報として取り出す循環が必要である。

知能システム学専攻では，このような情報の取得，富化と循環を実現するために必要な理論と技術を，人間の知性・感性・身体と情報システムとにまたがった領域において探求するとともに，それらを探求する人材を養成する。具体的には，(1) 知能システム学の基礎となる理論と技術として，画像・映像処理，音声・音響処理，行動信号処理，自然言語処理，応用人工知能，応用データ・サイエンスなどについて，また，(2) 知能を処理するシステムを設計するための理論と技術として，知的ユーザインタフェース，人間支援技術，データアナリティクスなどについて，さらに，(3) 様々なフィールドにおける知能システム学の社会実装のための理論と技術として，医療情報，法・歴史情報，教育情報などの応用技術について，それぞれ探求する。

名古屋大学東山地区配置図



地下鉄名城線
「名古屋大学」駅下車
1 番出口へ
出口より 徒歩 5 分

全学教育棟A棟

情報学研究科棟